

ワイズ VS シリーズ

ワーナー・ランバート VS ロッテ

“歯を丈夫で健康にする” 特定保健用食品の機能性ガム

『リカルデント マイルドミント』と 『キシリトールガム+2 クールハーブ』 あなたはどちらを選びますか？

今年2月からワーナー・ランバートは主力のガム『リカルデント』の広告で「キシリトール・ガムの2倍の再石灰化効果」と謳う比較広告は始めました。ワーナー・ランバートいわく「リカルデントはロッテのキシリトールガムの2.26倍の効果」。

今回ワイズでは『リカルデント マイルドミント』『キシリトールガム+2 クールハーブ』の商品特徴をご紹介するとともに、ワーナー・ランバートが行ったという比較実験や、ロッテの反論についてレポートします。

『リカルデント マイルドミント』 ワーナー・ランバート

私たちの口内では酸によって歯のエナメル質からカルシウム、リン酸が溶け出す脱灰と、唾液によってカルシウムやリン酸が補充されエナメル質を修復する再石灰化が日常的に繰り返されています。この繰り返しにより歯の健康は保たれていますが、このバランスが崩れ、脱灰のスピードに再石灰化が追いつかなくなるとエナメル質がスカスカの状態になり、イヤ～な虫歯を引き起こす大きな原因になってしまいます。

ワーナー・ランバートの『リカルデントマイルドミント』はこの再石灰化をサポートする特定保健用食品の機能性ガム。牛乳由来の成分CPP-ACP（リカルデント）を1%配合しており、このCPP-ACPがエナメル質から失われたリン酸とカルシウムを歯に浸透しやすいイオンの状態で供給、再石灰化を促進します。



CPP-ACPはメルボルン大学歯学部生化学・分子生物学教授のエリック・レイノルズ博士により発見・研究されている成分。その再石灰化効果は日本の厚生労働省でも認められ、CPP-ACPを配合した『リカルデントガム』は日本で初めて“歯を丈夫で健康にする”ガムとして特定保健用食品に認定されました。

ワーナー・ランバートがオススメする食べ方は食後や就寝前などに1日4回、20分ずつ噛みつづけること。2週間ほど続けるといっそう再石灰化に効果的とのこと。

『キシリトールガム + 2 クールハーブ』 ロツテ

キシリトールといえばロツテ。ロツテの『キシリトールガム + 2 クールハーブ』はキシリトールガムの機能性をさらに高めた、歯の再石灰化を促進する特定保健用食品です。

『キシリトールガム + 2 クールハーブ』のポイントはキシリトールに、ロツテが独自に発見した海藻フノリ抽出のフノラン、さらには第2リン酸カルシウムをプラスしたこと。具体的に、ロツテが東京歯科大学の柳沢孝彰教授の指導下で行った研究によれば、キシリトールは唾液中のカルシウムを捕まえてエナメル質の奥深くまで運び、海藻抽出のフノランは歯の脱灰した部分に張り付き唾液中のカルシウムをどんどん取り込み再石灰化を促進。さらに第2リン酸カルシウムは唾液に溶け込んで歯の材料になる、という役割があるとのこと。これら3つの成分がタッグを組んでエナメル質の再石灰化を促します。それにしても、キシリトールに虫歯の原因となる酸をつくらない、虫歯

の原因菌を弱めるなどの効果のほか、カルシウムのキャリアーとして再石灰化をサポートする役割まであったとは驚きです。

さて、ロツテがオススメする理想的な食べ方は1回5分噛み、1日1パックを目安に1週間食べつづけるとグッド、とのことです。

『リカルデント マイルドミント』 VS 『キシリトールガム + 2 クールハーブ』

現在、ワーナー・ランバートでは『リカルデント マイルドミント』(板ガム)の再石灰化効果はロツテ『キシリトールガム + 2 クールハーブ』(板ガム)より2倍高い、という内容の比較広告を展開し、『リカルデント』を強烈にアピールするとともに市場の活性化を狙っています。

ワーナー・ランバートの比較広告の根拠はオーストラリアメルボルン大学でのエリック・レイノルズ博士による比較試験(次ページ参照)。ワーナー・ランバートによれば実験ではリカルデントの再石灰化率は『キシリトールガム + 2 クールハーブ』の再石灰化率の約2.26倍あったと主張、その実験方法についても世界的権威という国際歯科研究学会の学会誌(ジャーナル オブ デンタルリサーチ)にリカルデントの効果を発表した時の方法を基本的に踏襲しており、その結果は比較広告の適正範囲、と言います。

これで困ったのは、私たち日本の消費者。オーストラリア人を対象にした実験がそのまま日本人に当てはまるのかも疑問です。

この点ワーナー・ランバートは「絶対的な意味での再石灰化では、今回の再石灰化率そのものは当てはまらない可能性が

試験対象ガム

『リカルデント マイルドミント』(板ガム)、『キシリトールガム + 2 クールハーブ』(板ガム)

コントロールとして市販されているキシリトール配合板ガム(一般食品)を使用。

実施機関および実施者:メルボルン大学歯学部 エリック・レイノルズ教授

試験対象者:20歳~50歳までの22本以上の歯を有する健康な男女10人

試験方法:

人工的に脱灰させたヒト・エナメル質の切片を用意し2つに切断。片方を口腔内装置に装着し、もう一方は対照用として保管。1人4片を口腔内装置につけ、口腔内装置はガムを噛む直前に装着。5分間ガム1枚を噛み、その後20分装着し続ける方法を1回5分、1日7回を1週間実施した。実施時刻は起床時、午前9時、11時、午後1時、3時、5時、就寝時。処理終了後にエナメル質半片を外し、それぞれの脱灰対照と対にして接合した上で断面を得た。これらに対してマイクロラジオグラフィおよびコンピューターアシステッド密度画像解析を実施し、再石灰化のレベルを検査した。

再石灰化の測定ポイントは1片につき6つで、試験商品1つにつき6×4片×10人=240のポイントで再石灰化を測定した。

また、一人の被験者が3つの対象ガムをすべて噛むクロスオーバー式を実施。試験対象のガムの再石灰化効果が他のガムに影響しないようそれぞれのガムを噛む間には1週間の休養期間を入れる。さらに、ガムを噛む順番はランダムで、実験中には実施者および被験者に評価しているガムがわからないよう設定する。

あります。再石灰化率というのはその人がもともと持っている唾液の中の成分で変わってくるからです。ただ、今回の実験では同一被験者を使ったので、再石灰化を促進するという変化を見る点については唾液中の成分差は関係ないと言われています」とのこと。

また、日本の消費者に売られる商品なのになぜ日本の研究機関で日本人対象の実験をしなかったのか、という質問に対してはワーナー・ランバートも当初は日本での比較試験を考えたようですが、手続きの時間的手間、ノウハウの有無などを考慮し、結局は実績のあるエリック・レイノルズ博士に依頼したとの答でした。しかし、エリック・レイノルズ博士はリカルデント成分の発見・研究者であり、実験結果は純粋な第三者による判定と言えません。さらにまた、当初の学会誌発表の件にしても、その後他の第三者が追試を行っている様子は今のところないようです。

一方、比較されたロツテは、「ワーナー・ランバートが発表した比較実験の内容では、ロツテや第三者が追試するほどのものではなく、何とも判断できずコメントの出しようがない」(ロツテ)と反論以前に当

惑の様子。ロツテも東京歯科大学と協同で『キシリトールガム + 2 クールハーブ』と『リカルデント マイルドミント』(板ガム)との比較試験(製品を単純比較するため余計な条件の及ばない試験管内で実施)を行っており自社の優位性を確認していますが、消費者の混乱をさけるため一般に公開する気はないそうです。

とはいえ、ロツテは現在、全国チェーンガム公正取引協議会を通じて比較広告の根拠となったワーナー・ランバートの比較試験の詳細な実験方法の開示を求めています。ワイズでも同様の主旨でワーナー・ランバートに取材をいれましたが、原稿執筆時点ではワーナー・ランバートからの正式な対応はありません。(ちなみにロツテの比較試験は論文化されており、第三者の追試が可能状態です)

ただ、今回のワーナー・ランバートの比較広告が同じ機能性を訴求する商品の並ぶ特保業界に一石を投じたことは確か。同じ機能性ならどちらが優れているか知りたいのは当然なことです。混乱を避けるためにも公的機関や業界団体などで、特保のような機能性食品の比較試験方法の整備を進めてもらいたいものです。



『キシリトールガム + 2
クールハーブ』
板ガム8枚入 120円